

## 第2講 植民地時代から独立まで

### 1 合衆国前史—新大陸への道(Way to the New Continent)

(ヨーロッパ、コーカサス人の事情)

問題：どうしたら、コンスタンチノーブルを避けて、ユーラシアの南方海域に点在する「香料の島々」(スパイス・アイランズ=モルッカ諸島ほか)に到達できるか？

← アフリカ大陸の南端、喜望峰を迂回して、インド洋へ入るルートをとる。

← 神をも恐れぬ「不敬の説=地動説」を信じ、「地球は丸い」という信念の下、ひたすら大西洋を西に突き進んで、反対側からアジアへ到達するルート。

#### (1) コロンブスの場合

1492年10月12日

砂浜に乗り上げて、十字架と王旗を掲げて、神への感謝と、この地をカスティリヤ、レオン、アラゴン王国の領有と宣言する。

#### 資料

マルコ・ポーロ『東方見聞録』

フランシス・ウッド『マルコ・ポーロは本当に中国へ行ったのか』草思社

『コンブス航海誌』岩波文庫

ガブリエル・ガルシア・マルケス『族長の秋』集英社文庫

#### (2) 新大陸・新世界への二つの姿勢

- ・スペイン人 資源を略奪、祖国へ持ち帰ろうとする
- ・イギリス人、フランス人、オランダ人  
自ら農耕に勤しむ定住型の植民

### 2 分離独立運動から憲法の制定まで

#### (1) 13植民地 Thirteen Colonies

#### (2) 憲法の制定—共和制—

「抑制と均衡」のシステム

「共和制」という政治体制。

ラテン語でレプブリカ republica

レス (res=thing)、プブリカ(publicus=public)

パブリック・シング=公衆のもの、公共のものという意味

国家的な統合、「多数の中の統一」

### 3 アメリカの国璽 Great Seal—われら神を信ず—

#### (1) 星条旗への忠誠の誓い The Pledge of Allegiance to the Flag

#### (2) ドル紙幣にみるアメリカ共和制の精神

国璽 大統領の紋章に用いられる

鷲。ローマ帝国の象徴でもあった。

鷲の頭上に13の星からなる光輪。新しい星座を象徴。